

**私たちが持つ技能、知識をシェアし
福島に、より質の高い医療を実現**

本紙は2013年8月に、学内コミュニケーションツールとして発行を始めました。以来3年間、復興、連携、地域貢献といったテーマを中心に情報を掲載してまいりました。しかし、震災から5年、復興への取り組みも、そのプラットフォームが整い、一斉始動し始めている中、本紙がお伝えする内容も、そろそろ研究、教育、診療といったテーマに主軸を移す時が来たと考えます。そこで本紙は次号より内容を一新し、講座や診療科の紹介や研究などを中心にレポートしていく予定です。

Report

食道アカラシアに対する内視鏡治療 -POEM-を導入

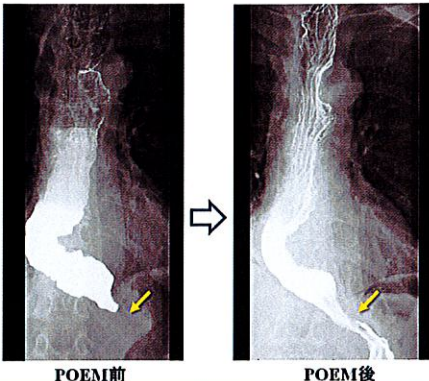
内視鏡診療部(消化器内科) 中村 純

POEM(経口内視鏡的筋層切開術: Per-oral endoscopic myotomy)は、「食道アカラシア」に対する口からの内視鏡を使用した低侵襲治療です。

アカラシアは、食道と胃のつなぎ目にある下部食道括約筋(LES)に異常が生じ、LESを緩めることができない病状です。そのため食事の通過障害をきたし、日常生活において著しくQOLが低下します。症状改善にはLESを強制的に緩め、通過を良くする治療が必要です。これまでは、バルーン拡張術が施行されてきましたが、効果が少なく、外科手術(Heller-Dor手術)が必要でした。しかし、新たな低侵襲治療(体表にメスを入れない治療)としてPOEMが開発され、2016年4月から保険収載されました。

POEMは国内で既に1000例以上の患者さんに施行され、高い治療効果と満足度が報告されています。私は、この治療の開発者で

ある井上晴洋教授のもとで一年間POEMの技術を習得し、当院に導入しました。症状でお困りの方、一度お話を伺ってみたい方は、ぜひ内視鏡診療部あるいは消化器内科外来へご連絡をいただければと思います。



Report

派遣型救急ワークステーション事業に関する協定を福島市と締結

救急医療学講座 島田二郎

平成28年7月25日、本院と福島市は「派遣型救急ワークステーション事業に関する協定」を締結しました。この協定は、週1回程度、救急車1台と救急隊員3名が、本院救命救急センターに派遣され、救急科の医師、看護師の指導のもと、院内で実習を行うものです。具体的には、救命救急センター初療室および病棟における傷病者の処置や訓練人形等を使用した訓練、救急活動の事後検証症例の検討などを実施します。

ターヘリよりも、早期に患者さんに接触し治療が開始できます) 救命救急は、本院においても非常に重要な部門と位置付けています。患者さんの救命率向上と後遺症低減が期待される本事業において、本院はその役割と責任を果たしていきます。 ※派遣型救急ワークステーション事業は、会津若松市に続き県内2例目となります。

本院での実習により、救命救急士を含む救急隊員の知識や技術が向上され、市民のみならずより安全で安心な質の高い救急サービスの提供ができることとなります。また、重症事案発生時には、派遣される救急車に本院の医師・看護師が同乗して現場へ少しでも早く出動し、より早期に治療が開始されることで、救命率の向上及び後遺症の軽減が図れるという利点も見込めます。(注：市内中心部などでは、既存のドク



県民健康調査「妊産婦に関する調査」

県民健康調査「妊産婦に関する調査」は、今年で6年目になります。対象となる妊産婦の方へ調査票をお送りし、回答内容をもとに、電話やメールによる相談、支援をしています。

アップ調査を行いました。うつ傾向を示す方や放射線の影響について不安を抱えている方が一定割合あったため、今年度も平成24年度調査回答者へのフォローアップを実施し、継続した支援を行っています。

「妊産婦に関する調査」が、少しでも妊産婦の方々に安心して出産や子育てをしていただくための手助けになれるよう市町村と連携、協力して実施してまいります。

調査、支援結果の報告会を実施

今年度は、11月末に調査票の発送を予定しています。調査や支援の結果については、主に市町村の保健師を対象とした報告会を行い、情報の共有を図っています。今年度は、放射線と甲状腺疾患に関する基礎知識や甲状腺検査についての研修会も同時に開催し、好評を得ています。

また、昨年度は平成23年度調査に回答された方へのフォロー



報告会の様子

医療・産業TRセンター(災害医学・医療産業棟)が完成

災害医学・医療産業棟は6月末日に完成し、医療・産業トランスレーショナルリサーチセンター(医療・産業TRセンター)がB1~5Fまで入居します。

また、新棟2Fのオープンスペースには、パネルなどの展示コーナーを設置し最先端の研究の内容等を常時紹介していく予定です。

内覧会を開催

現在、各研究分野が移転作業を進め9月12日(月)に県知事をはじめ、国会議員、経済産業省などの関係の皆さまをお招きして開所式を開催する予定です。当日は開所式に引き続き内覧会を実施します。

新棟完成を契機として、医療産業TRセンターでは、事業の目標である「ふくしまの復興へ向けた新規産業・新規雇用の創出」へ向けて、研究をさらに加速させていくとともに、活動内容をより分かりやすく、よりスピーディーに、学内はもとより県内外へ向けて積極的に情報発信をしてまいります。



医療・産業TRセンター全景

地域連携における前方連携の強化

本院は、一般医療機関では実施することが難しい手術や高度先進医療を、高度な医療機器、充実の施設の中で行う特定機能病院です。

を、紹介元医療機関の満足度向上のため、7月より午後7時まで延長するとともに、土日も正午まで予約を受け付けることといたしました。

事前予約受付時間枠を拡大

このため地域連携部では、一般の病院や診療所から紹介を受けて受診することを基本とし、患者さんをご紹介いただく際の診療・検査予約を取得するため、事前予約受付業務を平成24年度より行っています。

さらに予約問い合わせ専用のフリーダイヤルを設置し、地域の病院・診療所と緊密に連携が取れる環境を整えました。

今後も地域連携部では、地域医療連携を円滑に行うため、できるだけ短時間で予約取得の返答をし、紹介患者さんを増やす取り組みを進めてまいります。

これまででは、平日午後4時30分までだった事前予約受付時間

外来受診のご案内

福島県立医科大学 救急センター

〒961-8501 福島県福島市光が丘1-1-1
TEL: 024(547)1074 FAX: 024(547)1075

救急センター受付時間: 24時間受付
救急センター診療時間: 24時間受付

救急センターは、24時間受付の救急センターです。救急センターには、救急科の医師、看護師が常駐しています。救急センターには、救急車、救急箱、救急器具が備わっています。救急センターには、救急車、救急箱、救急器具が備わっています。

救急センターは、24時間受付の救急センターです。救急センターには、救急科の医師、看護師が常駐しています。救急センターには、救急車、救急箱、救急器具が備わっています。救急センターには、救急車、救急箱、救急器具が備わっています。